

挨拶

Greeting



新しい世紀を目前にして、私たちの同時代史には、巨大な歴史的変動が起っています。

そうした状況下において、その起源を遡れば安政4（1857）年の番所調所が発する歴史と伝統を誇る東京外国語大学も、時代の大転換を目撃しつつ真剣な論議を積み重ね、ここ数年来大学改革へのステップを大きく踏み出してきています。

本学の外国語学部は、1995年4月から従来の語学科制に替わって、より広域的な7つの課程制をとることになり、「言語・情報」「総合文化」「地域・国際」の3つの履修コースを設けるとともに教官組織も3大講座制（言語・情報講座、総合文化講座、地域・国際講座）へと大きく改組されました。

そして大学院重点化というわが国高等教育の方向を先取りし、人文・社会系の新制大学としては初の博士号（学術博士）を出した大学院（地域文化研究科博士前期・後期課程）を、さらにユニークな教育・研究の拠点にしてゆくべきものと考えております。

加えて本学には、全国共同利用のアジア・アフリカ言語文化研究所、国費（文部科学省）留学生教育を中心に発展してきた留学生日本語教育センター、それに保健管理センターなどがありますので、それらが学部、大学院と有機的に一体となり、言語を核としたForeign Studies（外国学）の総合大学として、より一層の発展を計ろうとしております。

本学には現在、約670人の留学生が世界各地から来ており、全学生に占める留学生比率は約15%と日本の国立大学のなかで最高ですが、このことは、本学が居ながらにして異文化交流の場になり得ることを示しています。

2001年夏には本学がモデル校となってアジア太平洋地域の将来のリーダーを集め、英語によるUMAP（アジア太平洋大学交流機構）リーダーズ・プログラムも行われます。

こうして東京外国語大学は、国際接触の第一線を担うばかりか、真に国際的なリーダーたり得る人材を養成するための個性的かつ創造的な大学に生まれ変わりつつあるとあってよいでしょう。

ところで、本学では1997（平成9）年度から、懸案のキャンパス移転統合のための建設に着手し、順調に工事が進んで2000年（平成12年）9月には新キャンパス・オープニング・セレモニーを挙行し、翌10月から府中新キャンパスで授業を行っています。門も塀もなく「対話と交流をベースに世界に開かれた大学」をモットーに広く市民にも開放されている新キャンパスは、東京近郊に残された数少ない広大な国有地スペースとして絶好の立地条件にありますので、ヴェージュ色で統一した色調の壁面はもとより、巨木の桜並木もある緑豊かな自然環境を大切に保全するために設計段階から多くの努力を重ねてまいりました。こうして21世紀の日本を代表する、世界にも誇れる大学キャンパスを完成しつつあるものと思っております。

しかし、大学にとって最重要の課題は、学生諸君に満足していただける教育・研究の充実ですので、東京外国語大学の新しい発展に向けて、私たちは、2001年4月にスタートした東京工業大学、一橋大学、東京医科歯科大学と本学との「四大学連合」をはじめとする大学改革の前進に、さらに一層の力を傾けるべきものと考えております。

東京外国語大学長

中島 尚 雄

（国際関係論）

沿革

History

理 念

東京外国語大学は、世界の言語とそれを基底とする地域文化および国際関係について、理論と実際にわたって研究・教授し、国際社会に関する豊かな知識と理解をもった創造性あふれる人材を育成するとともに、当該研究分野についての学際的で先端的な研究成果を広く国内外へと還元することを通じて、人類の平和と発展に寄与することを目的とする大学である。

長い歴史と伝統を誇る本学は、「外国の言語とそれを基底とする文化一般につき、理論と実際にわたり研究教授し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通して外国に関する理解を深めることを目的とする」(学則第1条)「世界の言語・文化、地域社会及び国際関係につき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする」(大学院学則第2条)との理念のもとに、様々なレベルの国際接触の第一線を担い、外国研究の第一線に立つ多数の有能な卒業生を社会に送り出している。

現在、本学は、広域的な7課程において26の専攻語を教授している外国語学部、大学院地域文化研究科(博士前期・後期課程)、外国人留学生のための留学生日本語教育センター及び全国共同利用のアジア・アフリカ言語文化研究所及び保健管理センターの各部局から構成されており、外国の言語・文化・社会及び国際関係の教育・研究を専門とするForeign Studies(外国学)の総合大学として、日本の多くの大学のなかできわめてユニークな高い地位を占めている。

文化8年(1811)

蛮書和解御用
〔天文方(貞享元年〔1684〕附設)〕

安政2年(1855)

洋学所

安政4年(1857)

蕃書調所

文久2年(1862)

洋書調所

明治6年8月(1873)

専門学生徒

明治7年5月(1874)

東京開成学校

明治7年12月(1874)

東京英語学校

明治10年4月(1877)

東京大学

明治10年4月(1877)

東京大学予備門

明治19年3月(1886)

帝国大学

明治19年3月(1886)

第一高等学校

明治30年6月(1897)

東京帝国大学

明治27年6月(1894)

第一高等学校

昭和24年5月(1949)

東京大学

昭和24年5月(1949)

東京大学教養学部



1921（大正10）年4月10日
麴町区元衛町1番地に完成
した新校舎

36	(1961)	年4月1日	学科を科に改称。イスパニヤ学科、ポルトガル学科、蒙古学科、インド学科、シャム学科をそれぞれスペイン科、ポルトガル・ブラジル科、モンゴル科、インド・パキスタン科、タイ科に改称。アラビア科設置。	
		12月16日	教授小川芳男が第三代学長に就任	
39	(1964)	年4月1日	科を語学科に改称 タイ科をインドシナ語学科に改称 アジア・アフリカ言語文化研究所を設置	
41	(1966)	年4月1日	大学院外国語学研究科修士課程を設置	
43	(1968)	年4月1日	特設日本語学科を設置	
45	(1970)	年4月1日	北区西ヶ原に附属日本語学校を設置	
46	(1971)	年3月 4月1日	府中市住吉町5丁目10番地1号の新校舎に附属日本語学校移転 教授鎌ヶ江信光が第四代学長に就任 田沢湖高原研修施設を開設	
47	(1972)	年3月	留学生課程を廃止	
50	(1975)	年4月1日	教授坂本是忠が第五代学長に就任	
52	(1977)	年4月1日	朝鮮語学科を設置 大学院地域研究研究科修士課程を設置	
55	(1980)	年4月1日	ヘルシア語学科を設置	
56	(1981)	年12月1日	教授鈴木幸壽が第六代学長に就任	
59	(1984)	年4月1日	インドネシア語学科をインドネシア・マレーシア語学科に改称	
60	(1985)	年4月1日	特設日本語学科を日本語学科に改組 国際交流会館開設	
		11月6日	評議会において府中市閑東村跡地への移転について意志決定	
		12月1日	教授長幸男が第七代学長に就任	
61	(1986)	年4月1日	附属日本語学校地に留学生教育教材開発センターを設置	
<hr/>				
平成	元	(1989)	年9月1日	教授原卓也が第八代学長に就任
3	(1991)	年4月1日	ロシア語学科をロシア・東欧語学科に改組	
4	(1992)	年4月1日	大学院地域文化研究科博士課程（前期・後期）を設置、外国語学研究科修士課程及び地域研究研究科修士課程を地域文化研究科に統合 インドネシア・マレーシア語学科とインドシナ語学科を東南アジア語学科に改組 附属日本語学校と留学生教育教材開発センターを留学生日本語教育センターに改組	
5	(1993)	年4月1日	アラビア語学科とヘルシア語学科を中東語学科に改組	
		6月24日	国の機関等移転推進連絡会議において大学の移転場所として東京都府中市閑東村住宅跡地を決定	
7	(1995)	年4月1日	外国語学部を7課程（欧米第一、欧米第二、ロシア・東欧、東アジア、東南アジア、南・西アジア、日本）3大講座（言語・情報、総合文化、地域・国際）に改組 教授中嶋嶺雄が第九代学長に就任	
8	(1996)	年4月1日	大学院地域文化研究科に「国際文化講座」（博士講座）を設置 外国語学部に総合文化研究所を開設	
		8月21日	文部省の国立学校施設計画調整会議において新キャンパス基本設計を了承	
9	(1997)	年4月1日	アジア・アフリカ言語文化研究所に情報資源利用研究センターを設置	
		4月22日	創立百周年（建学124年）記念式典挙行	
		9月26日	府中新キャンパス起工式挙行	
		10月22日	情報処理センターを開設。大学院（国際文化講座）に教員任期制導入	
10	(1998)	年10月1日	ISEP TUFS（東京外国語大学国際教育プログラム）開設	
11	(1999)	年4月1日	大学院地域文化研究科に「国際協力講座」（博士講座）を設置	
		11月4日	独立百周年（建学126年）記念式典挙行、『東京外国語大学史』刊行。ドナルド・キーン氏（コロンビア大学名誉教授）に最初の名誉博士学位を授与	
12	(2000)	年4月1日	副学長（2人）、外国語学部長が設置される 大学院地域文化研究科に最初の連携講座（連携先・日本銀行金融研究所）を設置	
		9月27日	府中新キャンパス・オープニング・セレモニー挙行、10月2日より新キャンパスにて授業開始	
13	(2001)	年3月15日	東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学間において「四大学連合憲章」調印	
		4月1日	大学院地域文化研究科に連携講座（連携先・国際協力事業団）を設置	
		5月10日	東京外国語大学本郷サテライト開設	

変遷

Changes

外国語学部

昭24. 5 設置	昭26. 4 改称	専攻語学	昭36. 4 改称	昭和39. 4 改称
英米学科	第一部	(英語)	英米科	英米語学科
フランス学科	第二部第一類	(フランス語)	フランス科	フランス語学科
イタリア学科	第二部第二類	(イタリア語)	イタリア科	イタリア語学科
ドイツ学科	第三部	(ドイツ語)	ドイツ科	ドイツ語学科
ロシア学科	第四部	(ロシア語)	ロシア科	ロシア語学科
イスパニヤ学科	第五部第一類	(イスパニヤ語)	スペイン科	スペイン語学科
ポルトガル学科	第五部第二類	(ポルトガル語)	ポルトガル・ブラジル科	ポルトガル・ブラジル語学科
中国学科	第六部第一類	(中国語)	中国科	中国語学科
蒙古学科	第六部第二類	(蒙古語)	モンゴル科	モンゴル語学科
インド学科	第七部第一類	(インド語)	インド・パキスタン科	インド・パキスタン語学科
インドネシア学	第七部第二類	(マライ語・オランダ語)	インドネシア科	インドネシア語学科
シャム学科	第七部第三類	(シャム語)	タイ科	インドシナ語学科
			昭36. 4 設置 アラビア科	アラビア語学科

留学生別科	昭29. 9 設置 昭35. 3 廃止	留学生課程	昭35. 4 設置 昭47. 3 廃止
専攻生	昭28. 4 設置 昭31. 3 廃止	外国語専攻科	昭31. 4 設置 昭41. 3 廃止

大学院地域文化研究科

外国語学研究科修士課程

昭41. 4 設置

- ゲルマン系言語専攻 (英語学、ドイツ語学)
- ロマンス系言語専攻 (フランス語学、イタリア語学、スペイン語学、ポルトガル語学)
- スラブ系言語専攻 (ロシア語学)
- アジア第一言語専攻 (中国語学、モンゴル語学)
- アジア第二言語専攻 (インド語学)
- アジア第三言語専攻 (インドネシア語学、タイ語学)
- 日本語学専攻 (日本語) 昭50. 4 設置

地域研究研究科修士課程

昭52. 4 設置

地域研究専攻

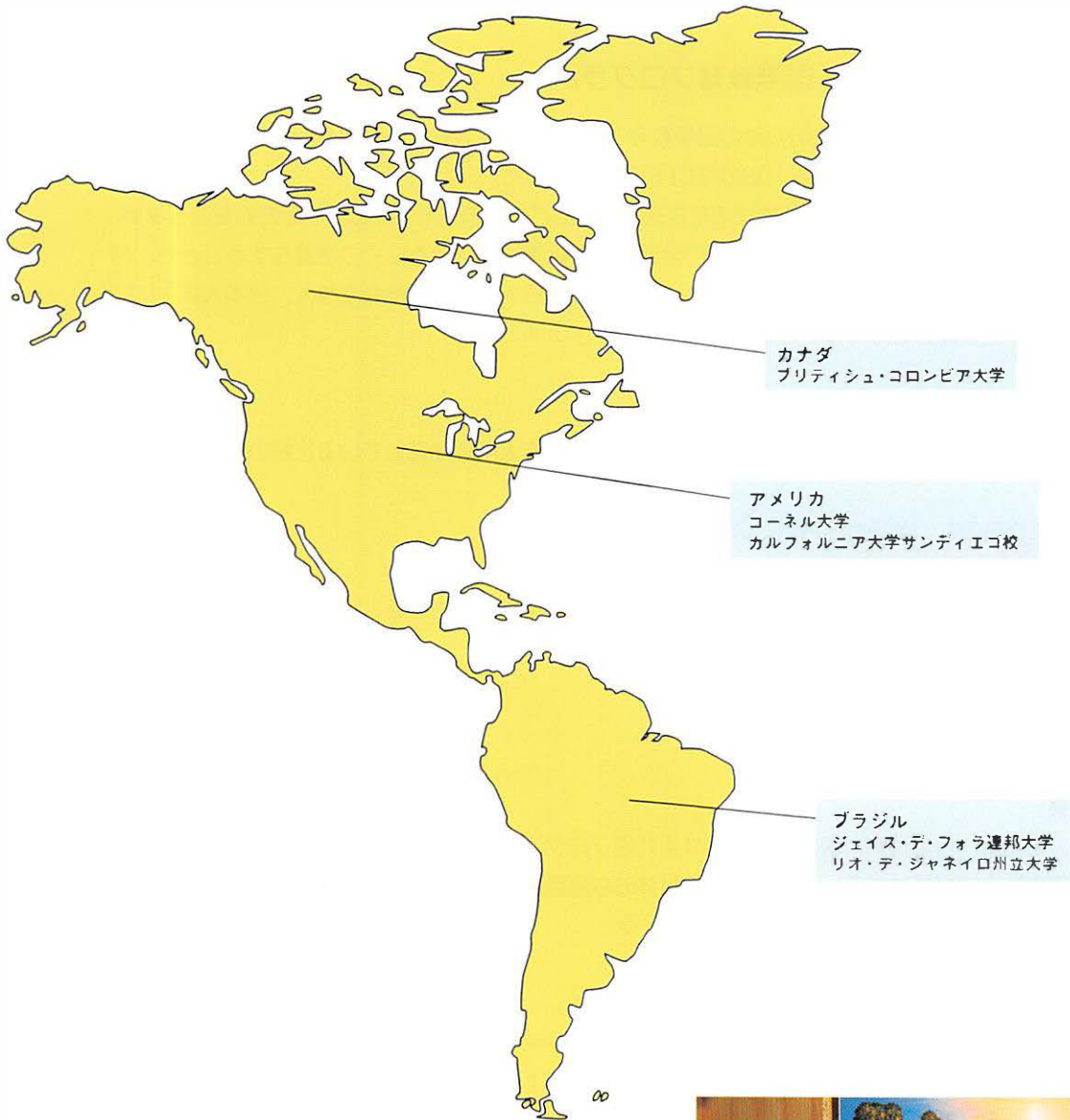
留学生日本語教育センター

附属日本語学校

昭45. 4 設置

留学生教育教材開発センター

昭61. 4 設置



王立ブノンベン大学における
調印式 (2000.4.5)



国際交流の夕べ

国際教育プログラム

本学では、1998年10月から短期留学生のための国際教育プログラム（International Student Exchange Program of Tokyo University of Foreign Studies [ISEPTUFS]）を開始した。

本プログラムは日本人学生、留学生相互の国際交流を推進し、さまざまな国の大学生どうしの知的交流を深め、国際性豊かな人材を養成することを目的に、本学の専門分野および副専攻語（日本語）の学習をすることで、高度な知識と国際的視野を習得させるものであり、留学生に対しては「日本で学ぶ」機会を与え、日本人学生に対してはいわば「学内留学」の機会を与えるものである。

対象学生

- (1) 東京外国語大学と学生交流に関して協定や合意書等を交わしている大学に在籍している正規の学生を対象とする。
- (2) 原則として勉学に支障のない英語力を持っていることを条件とする。
（日本語の学習経験は条件とはしないが、渡日前の日本語の学習を奨励している。）
- (3) 本学の学生については総合科目Ⅶとして開講されている専門科目の受講を認める。

留学生受入人数

約20名

プログラムの概要

本プログラムは、日本語、日本理解、国際理解からなる共通プログラムと留学生各自の専門分野に応じた専門プログラム（自主研究）とで構成されている。これらの具体的な履修計画は、指導教官の指導・助言の下に、留学生個人の研究課題や日本語能力等に応じて柔軟に編成される。

単位

所定の成績を修めた者には、東京外国語大学の規定に基づき単位が与えられる。

ただし、認定単位数及び学位に関する単位に認定されるかどうかは、派遣大学の判断となる。

役職員

Administrative Posts Staff

学 長

学 長 中嶋 嶺雄

副 学 長

副 学 長 (併)
高橋作太郎
富盛 伸夫

評 議 員

学 長 中嶋 嶺雄
副 学 長 高橋作太郎
副 学 長 富盛 伸夫
附属図書館長 池端 雪浦
外国語学部長 沓掛 良彦
アジア・アフリカ言語文化
研究所長 宮崎 恒二
大学院地域文化研究科長 西永 良成
留学生日本語教育センター長 横田 淳子
保健管理センター所長 井上 哲文
アジア・アフリカ言語文化研究所
附属情報資源利用研究センター長 町田 和彦
外国語学部教授 敦賀陽一郎
亀山 郁夫
相馬 保夫
上村 忠男
大学院地域文化研究科教授
アジア・アフリカ言語文化
研究所教授 内堀 基光
留学生日本語教育センター教授 田山のり子

外国語学部

外国語学部長 (併) 沓掛 良彦

講座長

言語・情報講座 在間 進
総合文化講座 亀山 郁夫
地域・国際講座 高橋 正明

課程・系列代表

欧米第一課程 馬場 彰
欧米第二課程 黒澤 直俊
ロシア・東欧課程 小原 雅俊
東アジア課程 小林 二男
東南アジア課程 石井 和子
南・西アジア課程 麻田 豊
日本課程 工藤 浩
人文系列 栗田 博之
社会系列 渡邊 啓貴
人間・環境系列 田島 信元

大学院地域文化研究科

地域文化研究科長 (併) 西永 良成

学内施設

覚教育センター長 在間 進
海外事情研究所長 藤田 進
語学研究所長 寺崎 英樹
総合文化研究所長 亀山 郁夫
情報処理センター長 芝野 耕司
国際交流会館長 高橋作太郎

事務局

事務局長 中原 勇夫
総務課長 西岡 裕介
会計課長 石井 利通
施設課長 古谷 昌弘
研究協力課長 長岡 篤
企画広報室長 竹田 和彦

学務部

学務部長 玉木 信義
教務課長 浅野 俊一
学生課長 宮城 實
入試課長 廣瀬 進
留学生課長 藤咲 仁一

附属図書館

附属図書館長 (併) 池端 雪浦
事務長 黒沢 黎子

保健管理センター

保健管理センター所長 (併) 井上 哲文

留学生日本語教育センター

留学生日本語教育センター長 (併) 横田 淳子

アジア・アフリカ言語文化研究所

アジア・アフリカ言語文化研究所長 (併) 宮崎 恒二

附属情報資源利用研究センター

情報資源利用研究センター長 (併) 町田 和彦

東京外国語大学運営諮問会議委員 (University Advisers) (五十音順)

阿部 謹也 (共立女子大学長)
井内慶次郎 (日本視聴覚教育協会会長)
石井 米雄 (神田外語大学長)
梅棹 忠夫 (国立民族学博物館顧問)
江崎玲於奈 (芝浦工業大学長)
木村 孟 (大学評価・学位授与機構長)
グレゴリー・クラーク (多摩大学長)
小林陽太郎 (富士ゼロックス株式会社取締役会長)
志村 尚子 (津田塾大学長)
堤 清二 (セゾン文化財団理事長)
ドナルド・キーン (コロンビア大学名誉教授)
本間 長世 (成城学園長)

職員

Staff

(平成13年5月1日現在)

区 分		学長	教授	助教授	講師	助手	その他職員	計
定	員	1	135	100		8	122	366
定員内訳	外国語学部		99	61		1		161
	大学院(地域文化研究科)		2	2		1		5
	アジア・アフリカ言語文化研究所		19	18		6		43
	留学生日本語教育センター		14	18				32
	保健管理センター		1	1				2
		外国人教師		外国人研究員		計		
外国語学部		25		—		25		
アジア・アフリカ言語文化研究所		—		6		6		



府中キャンパス



創立六十周年記念講堂のステンドグラス時計
西ヶ原キャンパス

東京外国語大学概要

2001



TOKYO UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES

目次

Contents

挨拶	1
沿革	2
変遷	6
組織	10
歴代の校長・学長、名誉教授	12
役職員	13
職員	14
学部・大学院	15
学生数	16
外国人留学生	21
大学間等の連携	22
大学と社会の連携協力	23
卒業・修了	25
附属図書館	29
保健管理センター	31
国際交流会館	32
本郷サテライト	33
厚生施設	34
外国語学部附属教育・研究施設	36
留学生日本語教育センター	38
アジア・アフリカ言語文化研究所	40
情報処理センター	42
国際交流	44
大学の財政状況	49
土地・建物	51
府中キャンパス	52
案内図・所在地	54